

第3次基本集計結果の概要－従業地・通学地集計－

1 小平市及び東京都の昼間人口ⁱ

小平市の昼間人口は166,779人で、前回の国勢調査（平成22年）に比べ、2,208人1.3%の増加となりました。昼間人口比率ⁱⁱは、87.8（26市中14番目）で、平成22年に比べ0.9ポイント低下しました。

東京都の昼間人口を地域別にみると、港区が最も多く940,785人（常住人口の3.9倍）であり、②番目に世田谷区856,870人（常住人口の0.9倍）、③番目に千代田区853,068人（常住人口の14.6倍）となっています。

また昼間人口比率が100を上回っているのは、市部では立川市（114.2）、武蔵野市（108.7）、多摩市（101.0）の3市となっています。

(1) 市外へ通勤している就業者数

市内在住の就業者82,716人のうち、53,605人（64.8%）が市外へ通勤、市外から小平市への通勤している就業者は29,781人で、流出超過就業者は23,824人となっています。

(2) 市外への通学者（15歳以上）数

市内在住の通学者12,916人のうち9,149人（70.8%）が市外へ通学しています。市外からの通学者は8,710人で、市内の学校への通学者は小平市内常住者も含めて12,539人です。平成22年に比べると、市外への通学者は1,121人（△10.9%）減少し、市外からの通学者は1,704人（△16.4%）減少しました。

(3) 通勤・通学先人（15歳以上）数

通勤先・通学先の区市町村をみると以下の通りとなります。

	通 勤 先		通 学 先	
1位	新宿区	4,800人	新宿区	849人
2位	千代田区	3,811人	小金井市	628人
3位	港区	2,880人	八王子市	627人
4位	国分寺市	2,602人	国立市	560人
5位	立川市	2,333人	国分寺市	439人

(4) 小平市への通勤・通学者（15歳以上）数

小平市への通勤・通学者（15歳以上）は以下のとおりとなります。

	通 勤 ・ 通 学 者	
1位	東村山市から	3,663人（うち通学者457人）
2位	東大和市から	2,180人（うち通学者309人）
3位	国分寺市から	1,743人（うち通学者553人）
4位	東久留米市から	1,554人（うち通学者180人）
5位	西東京市から	1,508人（うち通学者307人）
6位	立川市から	1,369人（うち通学者338人）
7位	小金井市から	959人（うち通学者292人）

また、区部からの通勤・通学者は4,247人(構成比10.8%)、市町村部からは24,229人(構成比61.7%)他県から10,820人(構成比27.5%)となっています。

i 昼間人口と夜間人口

従業地・通学地による人口(昼間人口)とは、従業地・通学地集計の結果を用いて、次により算出された人口である。ただしこの昼間人口には、買物客などの非定常的な移動については考慮していない。また、常住地による人口(夜間人口)とは、調査の時期に調査の地域に常住している人口である

(A市の昼間人口の算出方法)

A市の昼間人口=A市の常住人口-A市からの流出人口+A市への流入人口

i i 昼間人口比率

昼間人口比率は、常住人口100人当たりの昼間人口の割合であり、100を超えているときは通勤・通学人口の流入超過、100を下回っているときは流出超過を示している

(A市の昼間人口の算出方法)

A市の昼間人口=A市の昼間人口/A市の常住人口×100